

- 問1 7世紀後半、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国（日本）は、大陸からの侵攻に備えて九州北部の防衛を強化しました。この際、軍事・行政の拠点であった大宰府を防御するために、その北側に築かれた大規模な土塁と水堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。（2022年 神奈川県公立入試 類似）
1. 水城
 2. 前方後円墳
 3. 環濠集落
 4. 板付遺跡
- 問2 聖徳太子が定めた十七条の憲法の目的や内容について、当時の時代背景を踏まえて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）
1. 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。
 2. 唐の律令制度をそのまま導入し、土地や人民を国家が直接支配する公地公民の原則を確立した。
 3. 武士の間で起こる領地争いを公平に裁くため、日本で初めての武家独自の裁判基準を示した。
 4. 身分に関わらず才能のある人物を役人に登用するため、位階によって帽子の色を分ける制度を整えた。
- 問3 7世紀後半、皇位継承をめぐる「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。（2022年 大分県公立入試 類似）
1. 天武天皇
 2. 天智天皇
 3. 聖徳太子
 4. 桓武天皇
- 問4 7世紀から8世紀にかけての律令国家形成期の出来事について、天武天皇の事績として正しい記述はどれか。（2022年 大分県公立入試 類似）
1. 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたこととされる。
 2. 都を近江大津宮に遷し、日本最古の戸籍とされる庚午年籍を作成して、国民の把握に努めた。
 3. 唐と新羅の連合軍に大敗した白村江の戦いを受けて、九州沿岸に防人や水城を配置して国防を強化した。
 4. 遣隋使を派遣して大陸の進んだ制度を学び、仏教を政治の柱とするために四天王寺や法隆寺を建立した。
- 問5 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」において唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。この時、西日本の各地に山城を築き、九州の沿岸に「防人」を配置した人物は誰ですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 中大兄皇子
 2. 聖武天皇
 3. 白河上皇
 4. 足利義満
- 問6 7世紀の日本が遣隋使の派遣や大化の改新を経て、急速に律令制度を導入し、中央集権体制を確立しようとした背景について説明したものととして、最も適切なものを選びなさい。（2024年 山梨県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。
 2. 承久の乱によって朝廷の権威が失墜したため、天皇の力を再び強めるための新しい法律が必要になったため。
 3. 建武の新政において、公家と武士の双方を納得させるための新しい裁判基準を定める必要があったため。
 4. 元の襲来（元寇）を受けた経験から、九州沿岸の警備を強化するために中央から地方へ命令を伝える仕組みを整えたため。
- 問7 7世紀の日本における政治的な変遷をたどると、645年に蘇我氏を打倒した「乙巳の変」をきっかけに大きな改革が始まりました。この改革の中心人物であり、後に近江大津宮で即位して天智天皇となった人物は誰ですか。（2022年 静岡県公立入試 類似）
1. 中大兄皇子
 2. 聖徳太子
 3. 中臣鎌足
 4. 大海人皇子
- 問8 7世紀後半に起こった「壬申の乱」の経緯とその結果について述べた文として、正しいものはどれか。名称や関係性に注目して選びなさい。（2024年 高知県公立入試 類似）
1. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。
 2. 中臣鎌足が中大兄皇子と協力して蘇我氏を倒し、大化の改新を開始した。
 3. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、憲法十七条や冠位十二階を制定した。
 4. 桓武天皇が新しい政治を行うため、都を平城京から平安京へと移した。
- 問9 飛鳥時代、聖徳太子が604年に定めた「十七条の憲法」の第一条には、「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という一節があります。このように役人の心得を説き、天皇の命令に従うことを強調した主な目的として最も適切なものはどれですか。（2018年 大分県公立入試 類似）
1. 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため
 2. 氏姓制度を強化し、有力な豪族が代々高い役職を独占する仕組みを維持するため
 3. 唐の律令にならい、犯罪に対して厳しい刑罰を科すことで社会の秩序を保つため
 4. 仏教を国教と定め、寺院を建立するための多額の税を民衆から徴収するため
- 問10 法隆寺の金堂に安置されている釈迦三尊像に見られる、中央の釈迦如来と左右の脇侍を配置した形式や、中国の北魏様式の影響を受けた特徴を持つ文化の名称として最も適切なものを答えなさい。（2021年 大阪公立入試 類似）
1. 飛鳥文化
 2. 白鳳文化
 3. 天平文化
 4. 弘仁・貞観文化
- 問11 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が、天皇を中心とする国づくりを進めるために制定した、役人が守るべき道徳的な心得を何と称しますか。（2018年 三重県公立入試 類似）
1. 十七条の憲法
 2. 御成敗式目
 3. 武家諸法度
 4. 公事方御定書
- 問12 推古天皇の即位や冠位十二階の制定などが記された7世紀初頭の歴史年表において、この時期に並行して栄えた文化の記述として、その特徴と中心地の組み合わせが適切なものを選びなさい。（2017年 愛媛県公立入試 類似）
1. 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。
 2. 唐の文化の影響を強く受けた国際色豊かな文化であり、平城京を中心に栄えた。
 3. 天武天皇や持統天皇の時期を中心とし、薬師寺の造営などに見られる文化である。
 4. 貴族が日本の風土や生活に合わせた文化を生み出し、平安京を中心に栄えた。
- 問13 663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）
1. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。
 2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。
 3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。
 4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 水城	663年の白村江の戦いで敗北後、天智天皇は唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。大宰府という重要な拠点を守るため、平地を遮断するように巨大な堤防（土塁）を築き、そこに水を溜めて堀としたのが「水城」です。このほか、西日本の各地には朝鮮式山城と呼ばれる城も築かれ、国家的な防衛網が整備されました。
問2	答え 1 仏教や儒教の教えを役人の道徳的規範とすることで、天皇を中心とした国家体制の確立を目指した。	十七条の憲法は、法的な罰則よりも役人が守るべき精神的な規範に重点が置かれています。「和を以て貴しとなす」という言葉に代表されるように、豪族同士の争いを戒め、仏教や儒教の教えを通じて天皇への忠誠を促すことで、中央集権的な国家を築こうとする意図がありました。
問3	答え 1 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐる争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問4	答え 1 飛鳥地方に都を戻して飛鳥浄御原宮で即位し、中央集権化のために「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたとされる。	天武天皇は、それまで「大王」と呼ばれていた君主の称号を「天皇」へと定め、国号を「日本」とした時期の人物と考えられています。また、歴史書である「古事記」や「日本書紀」の編纂を命じたのも彼であり、国家としてのアイデンティティを確立しようとした点が大きな特徴です。他の選択肢は、天智天皇（近江大津宮、庚午年籍、白村江の戦い）や聖徳太子（遺隋使、法隆寺）に関する内容です。
問5	答え 1 中大兄皇子	663年の白村江の戦いで敗北した後、中大兄皇子は唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。そのため、大宰府を防御するための「水城」や西日本各地の「山城」を築くとともに、東国から集めた農民を「防人」として九州北部の警備にあたらせました。彼は後に天智天皇として即位し、近江大津宮へと遷都しました。
問6	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。	663年の白村江の戦いでの大敗は、日本に唐などの強大な勢力による侵攻の危機感を与えました。これに対抗するため、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」を原則とする律令体制を整え、国力を結集できる仕組みを急いで作る必要があったのです。
問7	答え 1 中大兄皇子	蘇我入鹿を倒して権力を奪還した中大兄皇子は、中臣鎌足らとともに「大化の改新」と呼ばれる政治改革を推進しました。この改革は、豪族中心の政治から天皇を中心とする中央集権国家への転換を目指したもので、中大兄皇子はその後、正式に天智天皇として即位しました。
問8	答え 1 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。	天智天皇の死後、後継者をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子の間で武力衝突が起こりました。これが壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇となり、地方の豪族を従えて中央集権化を強めました。選択肢にある大化の改新や、聖徳太子の政策、平安京への遷都は、それぞれ異なる時期や人物による出来事です。
問9	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子が活躍した時代は、有力な豪族どうしの対立が激しく、国家としてのまとまりが欠けていました。そこで、役人が守るべき道徳的な規範として十七条の憲法を制定し、仏教の尊重や天皇への服従を求めることで、天皇を中心とした組織的な政治の仕組みを固めようとししました。
問10	答え 1 飛鳥文化	釈迦三尊像は鞍作鳥（止利仏師）によって作られたとされる、飛鳥文化を代表する金銅像です。この時代の彫刻は、大陸との交流を背景に中国の北魏などの様式を取り入れており、アーモンド形の目や「アルカイック・スマイル」と呼ばれるかすかな微笑みの特徴です。これは日本で最初に開花した本格的な仏教文化の特色を示しています。
問11	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、有力な豪族たちが勢力争いを続けていた当時の状況を改善し、天皇を中心とした中央集権体制を築くことを目指しました。そのために、儒教や仏教の教えを取り入れながら、役人としての心構えを説いたこの法を定めました。選択肢にある他の法は、鎌倉時代の武士のための法（御成敗式目）や江戸時代の大名・裁判のための法であり、時代や対象が異なります。
問12	答え 1 日本最初の仏教文化であり、現在の奈良県にある飛鳥地方を中心に栄えた。	飛鳥時代、特に推古天皇の時代には現在の奈良県明日香村周辺（飛鳥）に政治の拠点が置かれていました。渡来人の技術を取り入れた寺院建築や仏像制作が盛んに行われ、仏教を中心とした独自の文化が形成されました。選択肢にある平城京や天平文化、平安京や国風文化は、より後世の時代の特徴です。
問13	答え 1 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。	白村江の戦いで敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。